

教養部会教授 安藤 淑江

1. 研究活動

『陸奥話記』の清原武則	2012. 3. 22	名古屋芸術大学紀要 33 巻	前稿 (『征夷の物語としての『陸奥話記』— 頼義の「将軍」呼称をめぐって—]) で、『陸奥話記』における源頼義の「将軍」呼称が、きわめて意図的・作為的に用いられていることを通して『陸奥話記』が「征夷の物語」であることを明らかにした。本稿では、これを承けて、将軍の後継について検討した。頼義の長男源義家は将来の源家の伝説的祖先であるが、『陸奥話記』においては頼義後継として位置付けているとはいえない。むしろ、この争乱の戦功によって次期鎮守府將軍職に任じられた清原武則が、物語の中で徐々に地位を高めていき、頼義後継に位置付けていく。そのありさまを明らかにすることを通して、『陸奥話記』が源家興隆の物語にはなりえていないことを確認した。
-------------	-------------	----------------	---

2. 教育活動 (教育実践上の主な業績)

大学院授業担当 有 無

授業科目 文学	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>本年度は「古典文学再入門」の副題のもと、内容を一新した。まず写本から入り、仮名の歴史、発音の変遷と仮名遣い、等、高等学校ではあまり触れることのない国語学的な諸問題を解説して、新たな知見を得ることができるよう工夫した。「古典常識」も暦 (太陰暦) や家族制度等、現代生活に関わるものを取り上げ、古典文学読解が過去の断片的な知識の集成にならぬよう工夫した。毎回の「質問・コメント」を記入する用紙を通して、学生の理解度の確認を行って授業に反映、あるいは学生が関心を持った事項に補足を行うようにした。ミニテストを重ねることで、学生の授業への集中を促し、その解説を行うことで、記憶の定着をはかった。</p>	<p>本年度、授業のテーマを変更したので、配布資料も大幅な改変を行った。集中力が低く説明箇所がわからなくなりがちな学生が増えたことから、授業資料は PowerPoint によるスライドで提示している (コピーは配布する)。</p>

授業科目 文化史	
◆前期 □後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
講義の中で、各地の伝統芸能の実例の中から、古態を存するもの、あるいは復元の試みの映像をピックアップして見せている。記録しか残らない古代の芸能の歴史を具体的なイメージの中で再現すると共に、学生の音楽的・美術的体験の幅を拡大できるよう工夫している。「クイズ」を用意し、学生の関心をひく工夫もした。毎回「質問・コメント」を記入する用紙を通して、学生の理解度の確認を行って授業に反映、あるいは学生が関心を持った事項に補足を行うようにした。	授業の概要をより確実に理解することを目標に、わかりやすい教材の作製を行っている。教材は毎年更新している。集中力が低く説明箇所がわからなくなりがちな学生への対応を考慮して、昨年度より PowerPoint によるスライドに変更し、今年度も新たな改訂を行った。
授業科目 教養講座（人間）	
□前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
授業内での体験・作業・練習を積み重ねていく事を通して、「変体仮名」が読めるようになり、日常使う文字である「仮名」の歴史を体験的に修得できるように授業展開している。	授業でも有効に活用でき、欠席者には自習も可能な教材を作製している。教材は毎年更新している。学生には欠席した場合でも必ず自習し提出を求めることで、所期の効果をあげている。本年度も新たな改訂を行った。

3. 学会等および社会における主な活動